

昭和60年度重要貝類毒化対策事業

(2) 広域分布調査

(要 約)

高林 信雄・蛭名 政仁・林 義孝・なつどまり乗組員 (以上、
青森県水産増殖センター)

涌坪 敏明・兜森 良則・赤羽 光秋・田村 真通・天野 勝三

中村 俊毅・開運丸乗組員・東奥丸乗組員・青鵬丸乗組員 (以上、
青森県水産試験場)

この調査は、下痢性貝毒原因プランクトン *D. fortii* の起源および分布動態を把握し、下痢性貝毒の発生および消滅予測に役立てることを目的として実施した。なお、詳細については「昭和60年度重要貝類毒化対策事業報告書 (広域分布調査)」(昭和61年3月)として報告した。

1 調査地点

図1に示した青森県沖合の日本海・津軽海峡・太平洋の各定点。

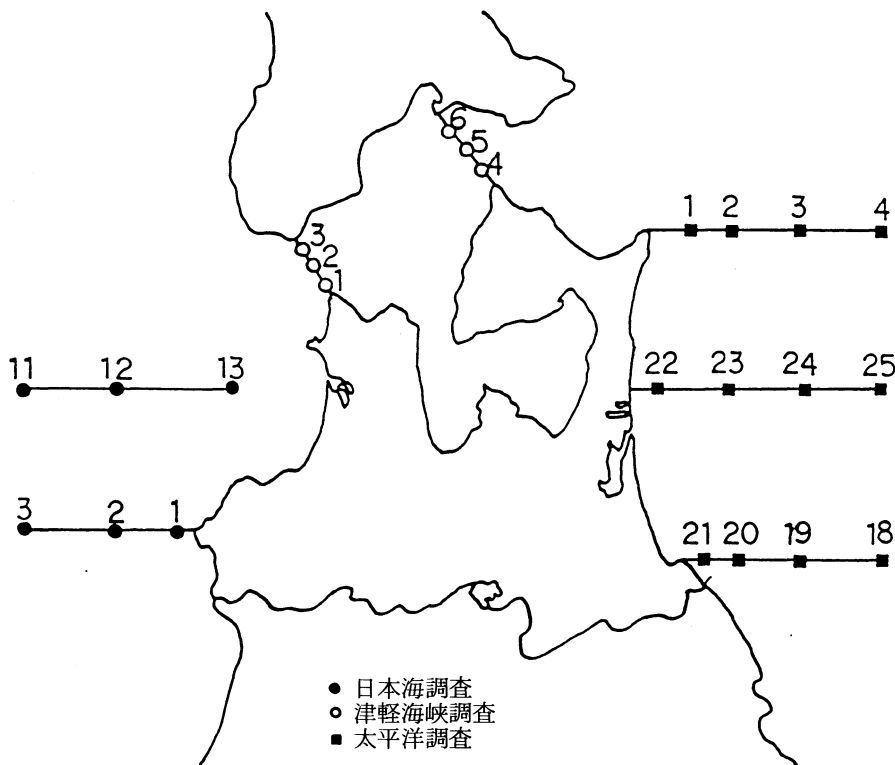


図1 広域分布調査地点図

2 調査時期

表1に調査海域別の調査時期および回数を示した。

表1 広域分布調査時期および回数

日 本 海	津 軽 海 峡	太 平 洋
60. 4. 7~60. 4. 8	60. 4. 23	60. 6. 18~60. 6. 22
4. 30~ 5. 1	5. 8~60. 5. 9	8. 21~ 8. 25
5. 28~ 5. 29	6. 4	10. 25~ 10. 28
6. 25~ 6. 27	7. 9~ 7. 10	61. 2. 27~61. 3. 4
8. 27~ 8. 30	7. 31~ 8. 1	
10. 4~ 10. 9	9. 11~ 9. 12	
61. 3. 4~61. 3. 7		
7	6	4

3 調査項目

水温、塩分、採水プランクトン

4 結 果

○ 日本海調査

最初に *D. fortii* の出現が認められたのは4月上旬であった。その時の最高出現数・水温・塩分は、それぞれ60cells/ℓ・8.3℃・33.6であった。

D. fortii の最高出現数が認められたのは5月下旬であった。その時の最高出現数・水温・塩分は、それぞれ980cells/ℓ・10.6℃・34.2であった。

最後に *D. fortii* の出現が認められたのは6月下旬であった。その時の最高出現数・水温・塩分は、それぞれ20cells/ℓ・15.8℃・34.1であった。

○ 津軽海峡調査

最初に *D. fortii* の出現が認められたのは4月下旬であった。その時の最高出現数・水温・塩分は、それぞれ40cells/ℓ・9.4℃・33.9であった。

D. fortii の最高出現数が認められたのは5月上旬であった。その時の最高出現数・水温・塩分は、それぞれ250cells/ℓ・10.8℃・33.1であった。

最後に *D. fortii* の出現が認められたのは7月下旬であった。その時の最高出現数・水温・塩分は、それぞれ10cells/ℓ・8.6℃・34.2であった。

○ 太平洋調査

最初に *D. fortii* の出現が認められたのは6月中旬で、すでに最高出現数580cells/ℓが認められた。その時の水温・塩分はそれぞれ13.9℃・33.5であった。

最後に *D. fortii* の出現が認められたのは8月上旬であった。その時の最高出現数・水温・塩分は、それぞれ20cells/ℓ・15.5℃・33.5であった。

- *D. fortii* の出現および消滅は、日本海・津軽海峡・太平洋の順に認められた。
- *D. acuminata* は、日本海・津軽海峡・太平洋ともほとんど出現が認められず、最高でも4月下旬に出現した50cells/ℓであった。
- *Protogonyaulax* 属は、各海域とも全く出現が認められなかった。
- *D. fortii* は、水温8～16℃・塩分33～34の範囲で出現が認められ、特に水温11～14℃で高密度に認められた。
- 昭和60年は、前年に比べ、*D. fortii* の出現期間が短く、出現量も少なかった。また、昨年出現していた *P. tamarensis* が全く出現しなかった。